

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600234		
法人名	医療法人 至慈会		
事業所名	グループホームほのぼの		
所在地	佐賀県杵島郡白石町大字戸ヶ里1831番地18		
自己評価作成日	平成 22年1月6日	評価結果市町村受理日	平成 22年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.goj.ouhou-saga.jp/kai.gosi.p/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人佐賀県社会福祉会
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成 22年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木材を基調とした建物になっており、落ち着いた雰囲気、漂う造りになっています。吹き抜けのある明るい廊下や、庭を一望できる食堂が特徴です。また、母体が医療法人で協力体制が整っているため、助言を受けたり身体の変化にすぐに対応できますので、ご本人・ご家族ともに、安心して入居できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が病院であり、ホームが同じ敷地に建っているため、安心感がある。同じ敷地にあるのに、垣根を隔てた建物は、落ち着きがあり、居心地よさそうな、お邪魔しなくなる雰囲気をもっている。木造平屋つくりの和風住宅2棟が廊下で結ばれ、採光のよい大きなガラス越しに居心地のよさそうな椅子があり、ゆったりと座る姿が見える。静かな時が流れている。内部も障子や畳のコーナーや、床暖房のスペースがあり、入居者が落ち着き安心できる和の造りである。【個人の尊厳】を基本としたケアサービスを提供します、の理念に沿った暮らしが十分感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「常にその人らしさを大切にし個人の尊厳を基本としたケアサービスを提供します」という理念をつくり、業務の中、職員間でミーティング等を行い共有し、日々個別ケアに従事しています。	ミーティングや事あるごとに、理念に関してスタッフ間や管理者を通し意識付けがされ、共有した関わりができています。又、理念を印刷したカード(名刺大)をスタッフが身につけており、理念に沿った関わりが徹底されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでの行事へご参加いただいたり、運営推進会議の開催で活動状況等を報告しています。地域行事への参加はまだ少ないため、今後も働きかけしていきたいと思っています。	院内保育園や外部からの訪問は多い。近所の方から野菜の差し入れもある。毎年餅つき大会には近所からの参加があるが、今回はインフルエンザ予防のため中止となった。ホームから、地域行事への参加はまだ少ない。	入居者間の介護度の差、心身状態の変化、ホームの体制等諸事情で地域に出向くことが制限されているが、公用車の追加も予定されているので、今後、地域行事への参加に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年は、認知症の講演を開かせていただく機会がありましたが、今年は支援事業等を行う機会がありませんでしたので、今後機会を見つけていきたいと思っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1度運営推進会議を行っており、その際意見交換を行い、協議の上で実行しながらサービス向上に努めています。	行政や家族、民生委員等のメンバーで2ヶ月に1回開催し、入居者の状況や行事予定や報告、意見交換等をしている。メンバーが固定され、地域への呼びかけがないため、推進会議の活用が十分発揮出来ずにいる。	構成メンバーを地域にも広げ、ホームへの理解を広めることで、協力体制の強化につながると考える。推進会議を十分活用できるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保険者・役場・社会福祉協議会等に適宜、足を運び連携が図れるよう努めています。	関係機関へは足を運び、顔なじみの関係作りに努めている。会議には必ず出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束が必要な入居者様はおられません。今後マニュアルを作成し、必要時に対応できるよう努めていきたいと考えています。また、玄関は夜間以外いつでも開放しています。	【決して拘束しない】理由や関わり方が、スタッフに理解されている。日中は玄関を開放しており、敷地内の出入りは自由である。センサーを設置しているので居場所確認はできている。敷地外への自由行動は、見守りや、行動を共にしたりすることで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされることがないように、十分注意を払い防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用されている入居者様はおられませんが、今後必要な方には活用できるように支援していきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定等の際は入居者様のご家族と面談し、職員が十分説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	適宜カンファレンスを開き、意見交換し対応策等を考えています。また、面会時等に近況報告を行い、ご家族の意思確認を行っています。	家族からは、年1回家族会を開いて意見を聞いている。また、2人ずつ交代で運営推進会議へ参加していただいたり、面会の時や定期的なカンファレンス時など意見を伺っている。利用者については日々の関わりの中で気持ちをくみ取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に全体ミーティングを実施し、お互いの意見交換をしています。また、管理者は職員の提案を聞き、必要に応じ代表者に要望し、反映させています。	ミーティングのほか、気づいた時はすぐスタッフ間や管理者に伝え、必要に応じ解決している。今年は、管理者との個人面談も実施し、積極的にスタッフの意見を反映したいと意欲的である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表は必ず代表者に提出し、管理者は毎日ホーム内で職員に目を向け、適宜代表者へ報告しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内、法人内での勉強会及び外部の研修会には積極的に参加し、職員一人ひとりを育てています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年間行事への参加の呼び掛けや、白石町地域連携協議会で2カ月に1度、管理者や職員が集まり、各事業者が抱える問題等を提議し話し合う機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際には、できるかぎり面談の場を設け、実際に見学していただき、不安なこと・要望等に耳を傾け、ご本人が安心できるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談の機会を設け、ご家族の気持ちや状態を把握し、サポートするよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、ご本人・ご家族の意向を伺い、考えを把握し、グループホーム内のサービスでも可能か、もしくは他のサービスが必要であれば勧めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに支えあう関係づくりを念頭に置き生活を送っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当者会議や行事等でご家族が事業所に見えた際、現状報告や情報交換に努め、ご家族とともにご本人を支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族から、ご本人のこれまでの聞き、時に馴染みの場所へ足を運んだりして支援に努めています。	家族からの情報のほか、日々の会話の中で馴染みの場所を知ることもある。家族の面会以外、知り合いの方が、敷地内の病院受診のおりホームに立ち寄ることもある。出入りに制限はしない。必要に応じ、自宅や近隣へのドライブも実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりを尊重した関係の中で、生活やイベント等、場面場面でともに過ごす時間を大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々状況確認のお電話をしたり、ご家族が不安な時は訪問等の対応をしながら、つながりを保つよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご希望、意向の把握をし、できるかぎりご希望に添えるよう努めています。困難な場合は、ご家族の検討の上入居者様がなっとくできるように支援しています。	自分の口から、意向を伝える入居者はほとんどいないが、ふれ合う中で、意向を感じ取るよう努めている。本人本位を尊重している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居直後、基本情報として生活歴を含んだ入居者様の情報を収集しています。また、面会時等、ご家族から話を聞き、職員間で情報共有し把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、ともに生活を送りながらその方像の把握に努めています。なかなか把握しきれない部分もあり、把握してもケアに反映されていない部分もあるように思います。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の開催により、ご本人・ご家族の思いを反映するよう努めています。主治医及び、関係者の意見を反映し、介護計画を作成しています。	担当者を決め、センター方式を活用しながら介護計画を作成している。本人からは日頃の関わりの中で意向を把握し、家族へは面会時に、主治医からは往診時等で意見を伺っている。定期的なモニタリングも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践後、気づいた点は個別の記録ノートに記載し、職員間の情報共有に努め、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族やご本人のご要望は、できるかぎり柔軟に対応できる様努め、サービスの多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の開催や防災訓練を行う等、地域の方の協力を仰ぎながら支援しています。また、地域のボランティアの方々の慰問を受け、入居者皆様の暮らしが支えられていると思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院併設であり、いつでも医療を受けられるように支援しています。また、他医療機関を受診される方には連携協力での支援をし、安心して受診できる体制づくりに努めています。	入居時に母体の病院が主治医となり、定期的に往診を受けている。必要に応じ受診の援助と、主治医からの紹介があれば専門医への受診へとつなげている。専門医との連携も取りながら、受診は原則家族にお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の異変・気づきは個人ノートへの記載及び看護職への報告を怠らず、適切な受診や看護が受けられるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へ入院された場合、担当のDr・看護スタッフと情報交換を行い、ご家族と協議の上で正式に退去、もしくは再入居かを決定します。適宜情報交換は取り続けます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療による支援が必要な場合、ご家族と主治医を交え協議し、方針を共有しています。	高齢者が多く、急変することもある。同じ敷地にある病院と連携はとれており、法人としての重度化や看取りの指針はある。ホームとしての体制がまだ整っていないため、状況に応じそのつど話し合いをしている段階であり、家族の意向を確認する意向である。	生活の場としてのホームであり、入居者の年齢が高いこともあるので、終末期について体制を整えることも必要かと思える。家族の意向等を集約し、ホームとしての考え方や、今できること、今後整備することなど整理し、納得できる生活を送れることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、速やかな外来受診・心肺蘇生法等、必要な場合に全職員が行えるよう、本年の防災訓練時に消防職員(救急救命士)を招き、応急救護訓練を指導していただきました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を行っています。	併設病院や消防署との連携は取れており、避難訓練も実施している。今年は、地元消防団とのつながりや、風水害を想定しての訓練も計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	関わりの中で、距離を保ちながら言葉かけや対応を判断し、人格を尊重しながら信頼関係を築けるように努めています。	理念に基づいた関わりができています。距離を保ちながら、静かに見守り、人格を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ、ご本人の思いやご希望を自ら表出できるように働きかけてはいますが、自己決定ができない方もいらっしゃるため、職員の判断で支援している場合もあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるかぎり職員の都合を優先することなく一人ひとりのペースにあわせた生活を過ごしていただくよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人・ご家族のご意向を尊重し、整髪・整容・化粧等を行っています。また、定期的に理容師に訪問していただき、ご本人の好みにあわせた散髪をしていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片づけ、簡単な調理等は入居者様と職員と一緒にしています。また、色々な物を食べていただけるような食事内容になっています。	朝食はスタッフが用意するが、昼夕食は病院で調理し、ホームで配膳している。無理強いのことなく、出来ることを楽しくしていただけるよう、自然な言葉かけでの参加ができています。スタッフがともにテーブルを囲みながら日常会話が弾んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量等、必ずチェックし補水を心がけながら、入居者様一人ひとりの状態に対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分でできる方には見守りにより口腔ケアをしていただき、できない方は、職員が解除することで口腔ケアを実施し、口腔の清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の意思のもと誘導することを基本に置き、意思表示が困難な方は排尿パターンを把握した上で時間誘導を行います。	トイレの数が多く、日中はトイレ利用が中心である。定時誘導もするが、自分で行く方も見守りと確認は必ず行っているため、ホーム内は排泄臭がない。周りの方にわからないように誘導したり、交換したりしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の入居者様には主治医と相談の上内服による排便のコントロールや水分の出入、食事形態の工夫、適度な運動を勧め、便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則として、1日おきの入浴を実施しておりますが、風呂は毎日たてており、一人ひとりの希望やタイミングを図りながら対応しています。	風呂は毎日沸かしているため、タイミングが合わないときは無理にすすめることはしない。1週間は様子を見ている。浴室は明るく、広々しており、仲良しと一緒にすることも出来る。一人ひとりに応じた方法で入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なかなかお休みいただけない方には、適宜足浴・ホットミルクの飲用や談話することで、心地よく入眠されるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ノートを活用し、不明な点は主治医や薬剤師に確認をとりながら、服薬内容の確認、支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの生活歴や能力を理解し、それぞれの特技が活かせるようなレクレーションや野外活動等を取り入れ、各自が楽しむことができるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出のご要望に対してはできるかぎり、ご本人のご希望に沿うよう努めていますが、できないこともあります。また、職員だけでなくご家族のご協力を得て実施しています。	近所のスーパーへの買い物は多い。全員参加でお弁当を持ってのお花見は、行事として実施している。個別の外出支援は、入所者の状態やスタッフの体制、車の問題等で、すべて応じることは出来なかったが、今年度は小回りのきく車が準備できるので、少人数での外出が可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の意思により、小遣い銭程度の金額はご本人で管理していただいておりますが、金銭管理が困難な方には事務管理し、いつでも使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様をご自由に使えるよう公衆電話を設置しています。ご自分で電話を掛けることができない方に関しては、ご本人のご希望にあわせ支援しています。また、敷地内にポストが設置されており、手紙も自由に出すことができます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は入居者様にとって心地よく使用していただけるよう配慮し、季節感も取り入れて、居心地良く過ごしていただけるよう努めています。	ぬくもりのある木をベースにした和風のしつらえと広い廊下、外に面した大きなガラス戸からは陽が差し込み、庭がよく見える。床暖房のスペースや和室もあり、居心地よく過ごす工夫ができています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファ・ベンチ等を設置し、思い思いに過ごしていただけるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様ご愛用の品々は持ち込んでいただき、居心地良く過ごされるよう支援しています。ご自分で工夫されているかたもいらっしゃいます。	持ち込みの家具や趣味の花など飾られている。入居者の愛用の品々を持ち込んで居心地良く過ごされるよう支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内廊下には手すりを設置しており、安全な生活ができるよう、また、名前の記載により、本人様が自ら自室を認識できるよう工夫しています。		